

パネリストの回答

ホ・タン・ミ・フン (SEAMO RETRAC)

最初の質問は、高等教育に進学する資格がなく、仕方なく教職についた人々に関するものでした。このように意欲がない教員に対して、どのように対処すればよいのでしょうか。パネリストの皆様は、どうお考えになりますか。

エクトル・バルデス (ユネスコ・サンチアゴ、LLECE コーディネーター)

5700万人の教員が基礎教育に携わっています。地球の人口は60億人です。少数の教員で、膨大な数の人々を教えなければなりません。教員の意欲を高めるにはどうすればよいか、よい成果を達成するにはどうすればよいか、これは大きな課題です。教員の意欲を高めるには、より高い給料や、より多くの研修機会を教員に提供する政策が必要です。現職研修と教員養成の両方が必要でしょう。ロシアの研究者が言うように、教師は教える人ですが、学ぶことをやめれば教師として終わりです。つまり教師は教師であると同時に学習者でもあります。高い社会的地位を教員に与える包括的な政策が必要であり、教職は尊敬すべき崇高な仕事であると考えられるべきです。教員の報酬はよくなく、教員は低い給与に苦勞しています。他の職業と比べて6分の1から15分の1しかありません。給与が低いため、教職は不人気です。大卒者にとって教職が魅力的な職業になるようにしなければなりません。

ホ・タン・ミ・フン (SEAMO RETRAC)

バルデス博士がおっしゃったこと以外にも、例えば教員にとって働きやすい環境を作るなど、私たちにできることがあると思います。学校の管理職は教員の声に耳を傾ける必要があります。教員が働きやすい環境にあり、生徒だけでなく学校の管理職からも尊敬されるようになれば、教員も仕事に熱心に取り組むようになるでしょう。

ダニエル・シフナ (ケニヤッタ大学)

訓練を受けていない教員だけの問題ではありません。教員養成課程を受けた人でも、意欲が全くなく、情熱に欠けた教員がいます。根本的な問題は給与です。教員たちは最低水準の給与にもかかわらず、学校で多くの仕事をしていますが、ほとんどの政府はそれを認めず、感謝もしていないようです。例えば私の国ケニアでは、この2週間にわたって大規模なストライキがありました。教員たちがストライキを政府に事前に警告していたにもかかわらず、政府が彼らの声を無視したためです。教員たちが2週間学校に来なかったので、政府も目を覚まして、教員たちの要求を受け入れることを決定し、給与を100%引き上げることを約束しました。しかし2段階に分けて引き上げるというもので、まず給与を30%引き上げ、景気がよくなったら残りを払うというのです。いつ景気がよくなるのでしょうか。景気がよくなったら70%払うというのはナンセンスです。汚職が横行しており、政府が無駄なプロジェクトや自分の利益のために使っているお金を教育に回せば、教員に適切な給料を払えるはずですが、政府が無関心というのが問題です。

マイノリティの問題に関しては、ダカール行動枠組み(2000年)も取り組むことを誓っていますが、実際には何も行われていません。コミットメントの欠如がここでも問題です。私が言いたいのは、多数派に対する質の高い教育には批判的な目で見ることがあるということです。だれのための質でしょうか。それは支配階級のための質を再生産するためだけのものであって、マイノリティのための質は付け足しに過ぎないのでしょうか。

瀬沼花子 (NIER)

TIMSS の質問紙調査と日本の教員採用の状況の 2 点について述べたいと思います。児童・生徒の TIMSS の成績についてはすでにお話しした通りですが、子どもたちの算数・数学の得点を調べるだけでなく、教員が算数・数学の問題を解く力が一体どのくらいあるのか、それを評価する必要があるのではないかと国際的に議論されたことがあります。それだけ、教員の質の低さが国際的に問題になっているのです。ただし教員に算数・数学の問題を解かせるのは実際難しいので、実施されていません。

そこでこれに代わるものとして、TIMSS 調査では教師質問紙の中で先生に「教える内容にどの程度準備ができていますか」を聞いています。日本の先生は「とてもよく準備ができています」の割合が国際的にみて低いという特徴があります。でもよく準備ができていますと答えた先生に習っている国の児童・生徒の得点が高いかということ必ずしもそうではありません。日本の先生は控えめに回答しがちです。

次に、教員採用の状況です。日本語の「先生」には人生をよりよく理解し、先に生まれた先達として子どもたちを導く必要があります。かつて日本では教職は聖職であり非常に人気がある一方で採用数が大変少なく、倍率が数十倍という狭き門の時代がありました。今では東京などのように小学校は 2 倍程度に緩和されているところもあります。

教員の給料は 1970 年代以降、(それ) 以前に比べ高くなってきていますが、その分、以前に比べ優秀な教員が集まったかということ必ずしもそうではなく、教員の能力や姿勢や授業のやり方に多くの問題点があります。優秀な教員に高い給料を支払うにはどうすればよいかは、今でも課題です。優秀な教員を特定することが難しいからです。

県ごとの教員研修は、初任者研修、10 年目から 15 年目の研修などありますが、今年から教員は 10 年ごとに免許更新講習を受けるようになります。従来終身有効だった教員免許は、運転免許と同様更新しなければなりません。この免許更新講習によって教員の質が高まればよいのですが、今後よい方向に向かっていくのかどうか分かりません。

ホ・タン・ミ・フン (SEAMO RETRAC)

少数派に関する 2 つ目の質問について、シフナ教授が少し触れられました。少数派の児童生徒のニーズについて、どなたか付け加えることはありませんか？

ジョセフ・アンピア (ケープコースト大学)

少数派や恵まれない人々の問題についてですが、例えばガーナでは大学に進学する高校生の 80% は 20% の高校の出身で、残りが 500 の高校の出身です。つまりほとんどの大学生はわずか 20% の高校から来ているということです。恵まれない多くの生徒は、これらの高校の生徒とは競争できません。そのため国公立の大学は下位の高校の出身者たちに特別な枠を設け、それらの生徒もいくらかは大学に進学できるようにしています。このような機会を与えられた生徒たちは、たいへん優秀な成績を収めているので、これらのグループを対象にするべきです。私たちの教育はアカデミックな勉強に偏っていると思います。それで多くの人々はアカデミックな教育を希望しますが、職業訓練のプログラムなども多くあります。職業教育は成績の低い生徒のためのものではなく、それらの分野に関心を持つ生徒たちのものであるべきです。成績の低い生徒たちは技術教育や職業教育を選ばざるを得ず、科学からは遠ざかります。これは生徒にとって望ましい状況ではありません。個性は多様性と切り離せません。一つだけを強調しすぎて、個々の生徒が何を望んでいるかを無視することがないように気をつけなければなりません。職業教育や技術教育は大事ですが、生徒に選択を無理強いすべきではありません。それは個人の問題だけではなく、教育の問題です。どうすれば社会に対して最善の貢献ができるかという観点から、それぞれの生徒が選択できるべきです。

ホ・タン・ミ・フン (SEAMO RETRAC)

学校の ICT に関する 3 つ目の質問についてですが、ベトナムでは、まず教員に対して ICT を学ぶように奨励しています。授業というより授業の準備のために ICT を活用するよう教員に求めています。教員がコンピュータの使い方を理解し、教案を手書きではなく準備し、インターネットにアクセスして授業の資料をより多く得る方法を知ることが目的にしています。第二に、ICT を教員研修に活用しています。私たちはオンラインで教員研修を実施し、異なる州の教員が同時にコンピュータに接続して同じアクセスができるようにしています。これは SEAMO がフィリピンで始めたプロジェクトで、成功しています。また生徒に対しても、インターネットに接続できるコンピュータをより多く提供するように努めています。よく行われている方法は、教員が生徒に対して、オンラインで情報を検索し、特定の種類の情報源から写真やデータを得るように求める課題を出す方法です。ICT は学校の管理にも使われています。10 年前は完全に手作業で行っていましたが、今は 90% 近くがコンピュータを活用しています。ベトナムではこのように ICT を使っています。パネリストの皆様にご意見をお聞きしたいと思います。この他にも ICT を活用する方法はありますか。また ICT によって教育の質を向上させることができると思われませんか。

エクトル・バルデス (ユネスコ・サンチアゴ、LLECE コーディネーター)

ICT という新しい技術を活用して、学校教育を通じてデジタルデバイドを削減するべきだと思います。そのためにはしっかりとした政策を立てることが重要です。1 週間ほど前、学校の重要な機材としてコンピュータのシステムを私の事務所に提供下さる方がおられました。しかしこのシステムを提供しようにも、必要な電気がある国は 20% しかありません。つまりコンピュータを寄贈した写真を撮ることが、この方の真の目的でした。この方は写真に写りたかっただけで、デジタルデバイドの問題を解決するためにコンピュータを下さったのではありませんでした。兵器を使いこなすためには有能な兵士が必要です。私たちにとってそれは質の高い教員です。

ホ・タン・ミ・フン (SEAMO RETRAC)

皆様、様々な視点やアプローチがありますが、教育の質とは何でしょうか。様々な指標がある中で、より重視される指標もあります。例えば試験などです。それ以外にも検討すべき要素がたくさんあります。教育の質を考えると、いろいろな考え方がありますが、次のような共通点があると思います。

1. 平等に教育を受ける機会を保障する教育環境
2. 質の高い授業とカリキュラムなどの投入
3. 児童生徒の意欲や創造力を育む授業と学習の過程
4. 様々なタスクや学校教育の効率性によって測られる成果、成果物

考え方は時代によって変わりますが、教育とは何かを明らかにすることによって、政府や教員や児童生徒が高い質の教育を確保できるようになります。

最後に、発表下さったパネリストや会場の皆様に、有意義な質問や討議に熱心にご参加いただき感謝申し上げます。

吉田和浩 (広島大学)

きちんと時間を守っていただき、ありがとうございました。これから 30 分間、休憩をとります。会場に多くの専門家をご参加下さっていますので、この機会にパネリストの皆様と引き続きお話いただければと思います。セッション 2 は 4 時から開始します。